

4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

【基本的な考え方】温暖な気候や多品目栽培など、生産体系の特色を十分に活かし、地域資源や様々な分野と連携した農産物の生産・販売を通じて道南農業の持続的な発展を目指します。

(1) 農業生産基盤の強化と広域的な生産体制の整備【基盤づくり】

- 大区画化や暗渠排水整備などの農業農村整備事業を計画的に推進します。
- 販路拡大や輸出などを視野に入れ、農業協同組合の施設を核とした生産・流通体系の構築を図ります。



【農業農村整備事業（大区画化）】

(2) 経営の安定化と多様な担い手の育成・確保【人づくり】

- 次世代への円滑な経営継承や経営体質強化のため、家族経営をはじめとした農業経営体の実情に即した支援を進めます。
- ハウス内の環境制御や水田の水管理システムなど、スマート農業技術を取り入れた省力・効率的な農業生産を積極的に推進します。
- 営農支援組織の体制整備や大規模酪農法人の設立などを進めるとともに、障がい者や外国人材などを含めた多様な人材が活躍できる環境整備と地域の理解醸成に努めます。



【スマート農業（自動環境制御）】



【農福連携（花き選果場）】

(3) 消費者ニーズを的確に捉えた地域ブランドの確立【ものづくり】

- 食品関連産業や水産業、観光などの他分野との連携強化を進め、新規需要の開拓や消費者ニーズを踏まえた高収益作物の導入、高付加価値化、6次産業化などの取組への総合的な支援を進めます。
- 地産地消や食育、クリーン農業、GAPなどの取組を通じ、道民や消費者の地域農業への理解醸成に努めます。
- 食料消費の変化に適切に対応するとともに、地域農産物の魅力発信を進めます。
- 食と観光が連携した教育旅行や農泊の推進、都市と農村の交流拡大を進めます。



【企業参入（植物工場）】



【GI登録（今金男しゃく）】



【新たな地域ブランドの創出（醸造用ぶどう栽培）】

【農泊・農作業体験（教育旅行の受入）】



上川地域

1 地域農業の特色

○ 上川地域は、北海道のほぼ中央に位置し、大雪山系や夕張山系などの山々に囲まれ、名寄・上川・富良野の盆地が広がり、それぞれの盆地を流れる天塩川・石狩川・空知川が広大な沃野を形成しています。



○ 南北に224kmと細長く、北部・中部・南部で気候に差があるため、各地域で特色のある農業が展開されています。

【北部地域】 水稻・麦・そば・大豆などの土地利用型作物と、昼夜の寒暖の差を活かしたかぼちゃ・アスパラガス・スイートコーンなどの栽培が盛んです。



【中部地域】 道内有数の良食味米の生産地であり、水稻を中心とした複合経営が営まれています。



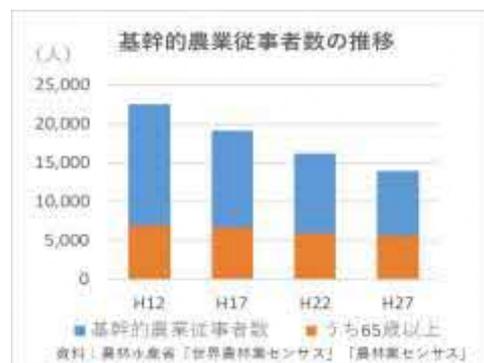
【南部地域】 麦や馬鈴しょ・てん菜などの畑作物をはじめ、たまねぎ・にんじん・メロン・トマトなどの様々な品目が栽培されるとともに、全国的に知名度が高く、観光客の多い美瑛・富良野地域では、直売などが盛んに行われています。



○ 酪農や肉用牛・養豚・養鶏などの様々な畜産が全域で営まれるとともに、めん羊によるまちおこしのほか、地域の特産品を目指すキヌアや薬用作物などは、地域振興とも強く結び付いています。

2 現状と課題

○ 高齢化や担い手不足に対応するため、様々な取組が行われていますが、担い手の十分な確保には至っていません。また、立地・人口・産業構造といった違いから、地域によっては安定した雇用人材の確保が難しい状況にあります。



○ 一戸当たりの経営面積の増加に伴い、省力的な作物への作付偏重や、輪作体系の乱れによる病虫害発生などがみられます。また、中山間地域等においては、平野部に比べ、基盤整備や農地集約化が遅れており、将来的に引き受け手のいない農地が発生する懸念があります。



○ 農業と接する機会の少ない、地域内外の都市在住者等による農業・農村への理解が十分に進んでいません。また、農村における地域住民と移住者等との交流が十分ではなく、地域コミュニティの活力低下が懸念されています。

3 地域農業・農村の「めざす姿」

将来の担い手に選ばれる 輝く上川の農業・農村

- 多様な担い手と人材が地域農業を安定的に支え、魅力的な産業として、農業が地域の他産業とともに発展しています。
- 多様な農産物を生産する特色ある産地を確立し、高い生産性や収益性を実現している活気溢れる地域になっています。
- 地域ぐるみで多くの来訪者と交流し、地域住民が次世代につなげたい宝として上川の農業・農村を誇りに思っています。

4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 担い手と雇用人材の確保

- 行政機関の関係部署や農業団体等が連携し、多様な担い手の確保に努めるとともに、道内外の他地域やサービス・観光業などの他産業、福祉事業所などとの協働、外国人材の受入といった雇用人材確保に向けた取組を推進します。
- 就農トライアルツアーなど、市町村等と連携した担い手確保の取組や、農業高校生向けの出前授業や先進農家の視察などを行うとともに、新規就農者・研修生の経営力向上のための研修会などを実施します。



【高校生を対象に実施した研修会】

(2) 高収益化の推進

- 大区画化などの基盤整備の計画的な推進とともに、RTK-GNSSを活用した農業機械や施設園芸における環境制御設備などの新技術の導入を支援するとともに、共同育苗などの作業の共同化や外部化の取組を推進します。
- 多様な担い手の経営展開方針に合わせて、観光と一体化した多角的な農業経営や、新たな需要を切り拓く新規作物の導入、農産物の価値を更に高める6次産業化の取組を推進します。



【区画整理（左：実施前 右：実施後）】



【高密度播種中苗による移植】



【まちおこしの資源となっているめん羊や新たな特産品を目指すキヌア】

(3) 豊かで魅力ある農村の確立

- フードツーリズムや体験・滞在型観光などの推進に係るプロジェクトと連携し、上川地域ならではの魅力を発信するとともに、幅広い世代に対する食農教育を推進します。
- 指導農業士・農業士会や農業法人ネットワークの研修会などを通して、移住者等を含めた地域内の交流促進に向けた機運を醸成します。
- 観光業をはじめ、農業関係者以外も巻き込んだ多様な受入主体による農村ツーリズムの取組を推進します。

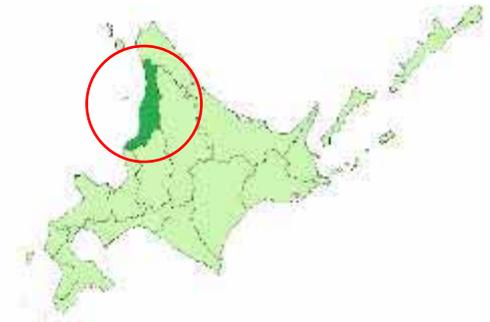


【農村ツーリズムの様子】

留萌地域

1 地域農業の特色

- 留萌地域は、北海道の北西部に位置し、南北130kmにわたり細長く、日本海に注ぐ中小の河川に沿って平坦地が分布しています。
- 土壌や地形、気候など南北で異なる自然条件を活かして、稲作、畑作、野菜、果樹、花き、酪農などバラエティに富んだ農業が営まれています。
- 道内有数の良食味米産地として評価が高いうるち米に加え、もち米は日本最北の産地となっています。また、パスタやパンなど様々な商品が誕生している超強力小麦ルルロツソ、YES!clean登録の野菜、暑寒別岳の豊かな湧水を活かした北限の果樹、夏の涼しい気候を活かした花き、市場評価の高い肉用牛、飼料基盤に恵まれた草地型酪農など、前菜からデザートまで揃えることができる食材の宝庫となっています。



2 現状と課題

- 農家戸数が減少する中、経営規模の拡大が進んでいますが、農業従事者の高齢化と後継者不足、地域人口の減少による労働力不足に歯止めがかからず、生産力の一層の弱体化が懸念されています。
- 小規模で透排水性が悪い農地が多いことなどから、農産物の安定生産に支障を来しています。
- 深川留萌自動車道の全線開通や道の駅の開業、農業協同組合の広域合併などを契機に、伝えきれなかった留萌の魅力に消費者がふれる機会の一層の拡大が期待されています。



3 地域農業・農村の「めざす姿」

夢と希望に満ちた「バラエティ豊かな」留萌農業

- 若い担い手が夢と希望を持って活躍し、家族経営を主体に多様な担い手・人材が支え合い、バラエティ豊かな農業を展開しています。
- 多様な農産物が、農業生産基盤の強化により安定的に生産され、省力的で生産性が高い儲かる農業を実現しています。
- 留萌ならではの豊かな食材や恵まれた自然、景観など地域資源を活かした活力と魅力あふれる農業・農村が形成されています。

4 「めざす姿」の実現に向けた主な取組の方向

(1) 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保

- Uターン就農や新規参入希望者に向けた情報発信、円滑な就農に向けた地域関係者が連携した受入体制の整備、「るもい農業基礎ゼミナール」による農業知識・技術早期習得の取組などを推進します。
- 青年農業者組織の活性化に向けた支援や、女性農業者が活躍できる環境づくりを推進します。
- 農業法人の課題解決や経営発展に向けたセミナーの開催、家族経営体を支えるTMRセンターなど営農支援組織の育成・体質強化の取組を推進します。
- 遠別農業高校生を対象に出前講座を行い、留萌農業への理解促進と就農意欲を喚起する取組を推進します。
- 安定的に雇用人材を確保できる仕組みづくりや、農福連携、地域における外国人材の受入環境整備に向けた取組などを推進します。



(るもい農業基礎ゼミナール)

(2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立

- 基幹作物である水稻の基本技術の励行による収量・品質の向上や、直播栽培など低コスト・省力化栽培技術の導入を推進します。
- 畑作物のほ場の透排水性改善による収量・品質の向上や、野菜、果樹、花きの栽培技術向上に向けた取組を推進します。
- 計画的な草地更新による植生改善や乳質向上に向けた取組、和牛産地の生産基盤強化に向けた取組を推進します。
- 高品質で安全・安心な農産物の生産に向けた取組や、自動操舵システムや搾乳ロボットなどスマート農業技術の導入支援、農地の集積・集約化、水田の大区画化や草地整備など計画的な農業生産基盤整備を推進します。



(直進アシスト機能付き田植機)

(3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

- 農産物の加工、直売など6次産業化の取組や、関連産業との連携による高付加価値化の取組を推進します。
- 留萌の豊かな地域資源を活かした農業体験や教育旅行の受入れなど、都市と農村との交流を推進します。
- 地場農産物の消費・販路拡大を図り、地元愛を高める地産地消を推進するとともに、留萌農業の情報や魅力を幅広く発信します。

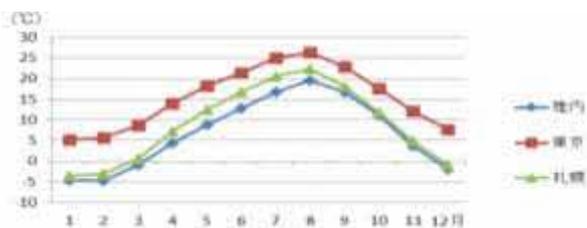


(教育旅行による農業体験)

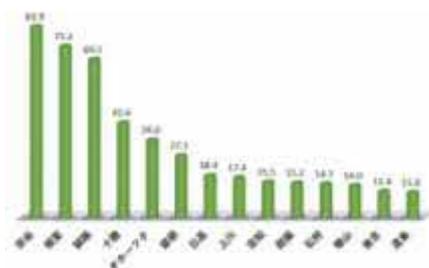
宗谷地域

1 地域農業の特色

- 宗谷地域は、昭和36年（1961年）に制定された農業基本法において国が打ち出した農業構造改革施策により、乳牛の多頭飼育による規模拡大が急速に進められ、酪農専業地帯への道を歩んできました。
- 管内は、夏場でも平均気温が20℃を超えないなど、年間を通じて気候が冷涼で、道内でも特に酪農に適した地域であり、良質な自給飼料を生産し、広大な牧草地を活かした草地型酪農を展開しています。
- 農業経営体の9割以上が法人化していない個人経営体となっていますが、近年では、畜産クラスター事業などを活用し、地域の生産基盤を支える大規模酪農経営を設立する動きも見受けられます。



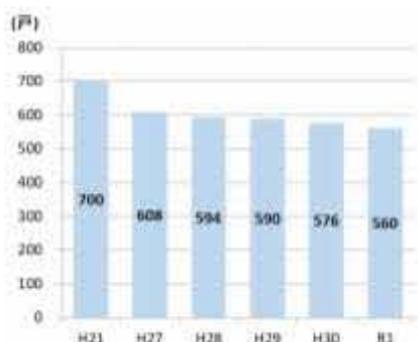
平均気温の推移 気象庁過去30年データ平均



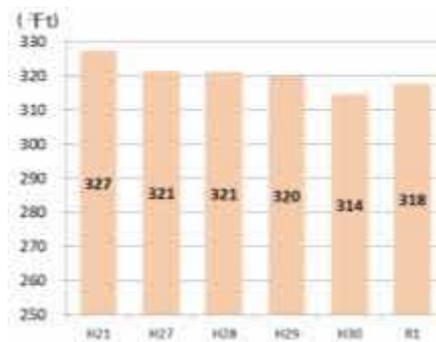
振興局別1経営体当たり耕地面積(ha)
2015 農林業センサス（経営耕地総面積／経営体数）

2 現状と課題

- 近年、農業従事者の高齢化による離農が進んでおり、生乳生産量が減少傾向となっています。
- 草地の基盤整備や植生改善、乳牛の能力を最大限に発揮する飼養管理の徹底など、地域の強みを活かした生産性向上への取組が十分に進んでおらず、また、経営継続に向けた草地や施設・機械への投資が進んでいない点が課題となっています。
- 人口の減少に伴い、地域産業を担う人材の確保が難しくなるとともに、地域コミュニティの活力低下が懸念されています。



宗谷管内のホクレン生乳出荷戸数（ホクレン調べ）



宗谷管内のホクレン生乳受託乳量（ホクレン調べ）